外　科

将来、一般消化器外科（乳腺外科を含む）や心臓血管外科を希望する場合は 24 週ないし 44 週コースを選択するのが望ましい。

(3 か月コース)
このコースを選択する諸君は、外科医になるかどうか迷っていたり、婦人科や泌尿器科などの外科系に進みたいが外科のテクニックも学びたいと考えたり、あるいは消化器内科に進みたいが今のうちに腹部外科も学んでおきたいなど様々であろう。目的がはっきりしているならば、是非とも相談すること。将来外科医にならないとしても、それで対応を変えたりはしない。3 か月という短い期間であっても、諸君の希望に添った研修を提供したい。通常業務の流れは 1 年目研修と同じである（一般・行動目標は 1 年目研修の項目を参照のこと)。2 年目として以下のことが可能である（行動目標)。

1. 希望により検査の見学、術者（上部消化管造影、注腸造影、上部消化管内視鏡、大腸内視鏡など)
2. 症例検討会のプレゼンテーションは必須（前もって指導医と画像を読影)
3. 中心静脈カテーテルの挿入の術者（但し指導医と共に行う。手技上の合併症や代謝上の問題点、利点につき理解する)
4. 術者として急性虫垂炎、鼠径ヘルニア、痔核は行ってもらう。状況に応じて、腸吻合、開腹時の胆嚢摘出など
5. 急性腹症患者の周術期管理を主体的に行う
6. 食道癌手術や肝切除など重症患者管理（ICU 入室患者）を指導医と共に行う
7. 栄養サポートチームや緩和ケアチームに参加し、チーム医療の重要性を学ぶ

(6 か月コース)
このコースは外科医になることを前提としているが、必ずしもそれに拘っているわけではない。2 年目として以下のことが可能である（行動目標)。

1. 希望により検査の見学、術者（上部消化管造影、注腸造影、上部消化管内視鏡、大腸内視鏡など)
2. 症例検討会のプレゼンテーションは必須（前もって指導医と画像を読影)
3. 中心静脈カテーテルの挿入の術者（但し指導医と共に行う。手技上の合併症や代謝上の問題点、利点につき理解する)
4. 術者として急性虫垂炎、鼠径ヘルニア、痔核は必ず行ってもらう。この 3 つの手術についてはインフォームドコンセントもできるようにしなければならない
5. 腸吻合、開腹時の胆嚢摘出術の術者も必須と考えている。研修が順調である者は、幽門側胃切除や結腸切除も考慮する

6. 急性腹症患者の術者および周術期管理（十二指腸潰瘍穿孔、大腸穿孔など）
7. 食道癌手術や肝切除など重症患者管理（ICU 入室患者）を指導医と共に行う
8. 栄養サポートチームや緩和ケアチームに参加し、チーム医療の重要性を学ぶ
9. 心臓血管外科チームに加わる（期間は相談）
10. 研究会、地方会などでの発表

（11 か月コース）

このコースは外科医になることを前提としている。それは現状では外科専門医を目指すことと同意である。従って、そのためには幅広い分野で多くの症例を経験しなければならない。2 年目として以下のことが可能である（行動目標）。

1. 希望により検査の見学、術者（上部消化管造影、注腸造影、上部消化管内視鏡、大腸内視鏡など）
2. 症例検討会のプレゼンテーションは必須（前もって指導医と画像を読影）
3. 中心静脈カテーテルの挿入の術者（但し指導医と共に行う。手技上の合併症や代謝上の問題点、利点につき理解する）
4. 術者として急性虫垂炎、鼠径ヘルニア、痔核は必ず行ってもらう。この 3 つの手術についてはインフォームドコンセントもできるようにしなければならない
5. 腸吻合、開腹時の胆嚢摘出術、乳房全摘の術者も必須と考えている。研修が順調である者は、幽門側胃切除や結腸切除、腹腔鏡下胆嚢摘出術も考慮する
6. 腹腔鏡補助下胃切除、大腸切除および胸腔鏡下ブラ切除はカメラマンのみ
7. 急性腹症患者の術者および周術期管理（十二指腸潰瘍穿孔、大腸穿孔など）
8. 食道癌手術や肝切除など重症患者管理（ICU 入室患者）を指導医と共に行う
9. 栄養サポートチームや緩和ケアチームに参加し、チーム医療の重要性を学ぶ
10. 心臓血管外科チームに加わる（期間は相談）
11. 研究会、地方会などでの発表
12. 症例報告を論文化する(外科専門医になるためには必須)

以上、3 つのコースを示したが、諸君らの希望に沿って柔軟に対応したい。当院には心臓血管外科があり、また件数は多くはないが、胸腔鏡手術（気胸など）も行われている。従って、当院での研修のみで外科専門医の取得が可能であることは強調したい。

小児外科

千葉県こども病院で研修をおこなう。

研修期間；4 週～12 週

研修内容；小児における外科疾患の研修。

その他、麻酔科や耳鼻科でも受け入れ可。